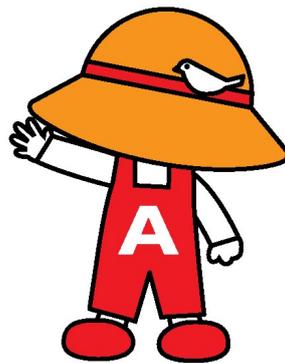


第2次岡崎市農山漁村発イノベーション推進戦略



岡崎市農林産物ブランド化推進

マスコットキャラクター

オカボ

令和6年3月

岡崎市農山漁村発イノベーション・

地消地産推進協議会

目 次

第1章 第2次岡崎市農山漁村発イノベーション推進戦略の策定にあたって

- 1 第2次岡崎市農山漁村発イノベーション推進戦略の策定の目的
- 2 戦略の計画期間

第2章 岡崎市の概要及び岡崎市の農林水産業の現状と課題

- 1 岡崎市の概要
- 2 市内の農林水産業及び農山漁村発イノベーションについての現状と課題

第3章 農山漁村発イノベーションの取組方針

- 1 現状と課題を踏まえた農山漁村発イノベーションの取組方針
- 2 今後の農山漁村発イノベーション推進の成果目標
- 3 地域の特性を生かした商品開発等の方向性
- 4 育成を図る農山漁村発イノベーション事業体の将来像

第1章 第2次岡崎市農山漁村発イノベーション推進戦略の策定にあたって

1 第2次岡崎市農山漁村発イノベーション推進戦略の策定の目的

現在、日本の農林水産業を取り巻く状況は大変厳しく、従事者の高齢化、後継者・担い手不足、耕作放棄地の増加、鳥獣被害の増加、価格の低迷や異常気象等、さまざまな問題がある。また加えて原油、肥料及び飼料価格高騰により、今後も一層厳しさを増すことが予想される。岡崎市（以下、「本市」という）の農林水産業においても同様である。

このような問題に対処するため、6次産業化やブランド化等により、本市で生産される農林水産物に付加価値を与え、農林漁業者（以下「事業者」という）の所得向上を目指し、令和元年7月に「岡崎市6次産業化推進戦略（令和5年度から「岡崎市農山漁村発イノベーション推進戦略」へ改正）（計画期間令和元年度～令和5年度）」の策定を行ったが、厳しい状況が続いている中、課題に引き続き対応が必要である。

第2次岡崎市農山漁村発イノベーション推進戦略は、本市において活用可能な農山漁村の地域資源を発掘し、磨き上げた上で、これまでにない他分野と組み合わせる取組等、農山漁村の地域資源を最大限に活用し、新たな事業や付加価値を創出する取組である「農山漁村発イノベーション」を更に推進し、消費者ニーズを的確に捉えた商品開発、ブランド化、地消地産の推進、小売店等での農林水産物加工品の販売・販路等の拡大を図り、事業者の所得向上を推進することを目的とする。

2 戦略の計画期間

本戦略の計画期間は令和6年度から令和10年度までの5年間とする。

第2章 岡崎市の概要及び岡崎市の農林水産業の現状と課題

1 岡崎市の概要

本市は、愛知県のほぼ中央に位置し、東部は新城市、西部は安城市・西尾市、南部は蒲郡市・幸田町・豊川市、北部は豊田市に接している。本市は平成18年1月に額田町と合併し、面積は387.20 km²で、県内では豊田市、新城市に次いで3番目に広い面積を有している。

気候は、典型的な太平洋岸式気候で、夏は高温多湿で雨が多く、冬は季節風が吹き乾燥しやすく、降雪はほとんど見られず、一般に四季を通じて恵まれた気象条件といえる。

人口は令和6年2月1日時点で383,890人。本市の人口は、昭和33年から増加を続け、平成22年に一旦減少したものの、その後増加に転じたが、令和2年に再び減少に転じ、令和5年には変動は少ない状態となっている。

2 市内の農林水産業及び農山漁村発イノベーションについての現状と課題

(1) 現状

本市の農業は、都市近郊型農業で、水稻を主体に、なすやいちごの施設園芸や、ぶどう等の果樹、花き、畜産等平坦地から山間地までバランス良く農業が展開されている。特に平坦地域では、ほ場の大規模化により担い手への利用集積が進み、水稻・小麦・大豆のブロックローテーションが確立している。

おかざき農遊館・ふれあいドーム岡崎・道の駅藤川宿といった産直施設を設置し地消地産を推進している。しかし、本市の販売農家農業就業人口は減少の一途であり、農林業センサスによると、平成22年3,115人から令和2年1,742人（約44%減）となっている。急速な高齢化、後継者不足や農産物の価格低迷が続き、農家世帯の後継者が他産業へと流出しており、今後はさらに減少傾向が進むと予想される。

また、経営耕地面積についても急激な産業（工場等）の流入による都市的利用に転用や遊休農地の増加により、農林業センサスによると平成22年2,345haから令和2年1,864ha（約21%減）となっており、今後も減少傾向にあると予想される。

林業は、平成18年1月に合併した額田地域で古くから盛んに行われてきた。本市の森林は市域の約60%を占め、大部分が額田地域であり、さらにその約60%が木材として利用されるスギやヒノキの人工林で形成されている。現在、人工林の約70%が森林資源として成熟段階にあるが、木材価格の低迷や後継者不足等を理由に林業は衰退の傾向にある。また、森林所有者の高齢化や世代交代、市外在住の森林所有者の増加等により、林地境界の確定が困難な森林が増加していることも林業の衰退の一因となっている。

また、本市の農山漁村発イノベーションの取組については、平成27年から単市補助制度「岡崎市農林水産物ブランド化・6次産業化支援事業費補助金（令和6年度から「岡崎市農山漁村発イノベーション推進事業費補助金」へ改正）」を開始し、この事業の支援を受け、かき氷やソフトクリーム等といった新たな商品を開発することができている。

令和5年1月に、本市は構造改革特別区域計画として「岡崎市ワイン特区」が認定され、これにより、本市の特産物であるぶどうを原料とした果実酒を市内で製造する場合、酒税法の最低製造数量基準（年間6キロリットル）が2キロリットルへ引き下げられることになった。ぶどうを原料とした果実酒の製造及び特産品としての開発を行い、令和6年3月に「純岡崎産ワイン」のブランドとして販売が始められた。この認定の活用等により、今後さらに農業所得の向上並びに新たな雇用の創出や栽培面積の拡大等、地域活性化を目指していく。

(2) 前戦略の成果について

岡崎市農山漁村発イノベーション戦略では、令和元年度から令和5年度までの計画期間に5つの成果目標を設けており、実績値は次のとおりである。

目標に対する「評価」について 「↑」… 達成 「→」… 変わらない 「↓」… 悪化

	目標内容	現状 (平成30年度)	目標 (令和5年度)	実績値 (令和5年度)	評価
1	農山漁村振興交付金(農山漁村発イノベーション対策)の活用	無し	増加	1件	↑
2	総合化事業計画の認定数	3人	増加	3人	→
3	市内農林漁業者の所得の向上	860万円(平均)	1,060万円(平均)	1,113万円(平均)	↑
4	各種イベント・フェア、ゆかりのまちでの販売促進	22回	増加	34回	↑
5	新商品の開発及び販路拡大への取組	10件	増加	15件	↑

岡崎市の農山漁村発イノベーション商品(抜粋)



いちごのかき氷



わ紅茶



むらさき麦関連商品



カラフル大豆



有機にんじん炊き込みご飯



干し芋

(3) 課題

本市の農林水産業が抱える課題としては、従事者の高齢化、後継者・担い手不足、耕作放棄地の増加、鳥獣害被害の増加、不明確な林地境界、販売価格の低迷、また原油、肥料及び飼料価格高騰が挙げられる。

農山漁村発イノベーションについては、農林水産物の生産で手一杯で加工にまわす人手を確保することが困難であり、取組意欲が少ない事業者も多い。実際に農山漁村発イノベーションを実施している事業者は、商品ができては販売の確立が困難なこと、販売ターゲットが絞れていないことや、小ロット生産なので商品価格が高い等の問題があり、うまく一般市民にPR・販売ができていない等が課題と考えられる。また、市内産直施設の売上や来店者数が減少・施設の老朽化に加え、観光農園、農家レストラン、体験農園等の農林水産業に触れる施設に乏しく、農林漁業者等の要望を踏まえ、地域の資源を活用した支援が求められる。

第3章 農山漁村発イノベーションの取組方針

1 現状、課題を踏まえた農山漁村発イノベーションの取組方針

本市での課題を解決するため、第2次岡崎市農山漁村発イノベーション推進戦略を策定し、農山漁村発イノベーションの推進を図る。

(1) 岡崎市農山漁村発イノベーション・地消地産推進協議会の設置

本市における農山漁村発イノベーションを推進するため、岡崎市農山漁村発イノベーション・地消地産推進協議会を設置。協議会のネットワークを活用し、農山漁村発イノベーションに取り組む事業者を支援していく。

岡崎市農山漁村発イノベーション・地消地産推進協議会

- ・ あいち三河農業協同組合
- ・ 岡崎市農業委員会
- ・ 岡崎市施設野菜振興会
- ・ J A あいち三河岡崎市いちご部会
- ・ 岡崎市花き温室園芸組合
- ・ 岡崎市植木生産協議会
- ・ 岡崎市果樹振興会
- ・ 岡崎市駒立千両組合
- ・ 岡崎市養豚振興協議会
- ・ 岡崎市養鶏振興会
- ・ 岡崎市酪農組合
- ・ 岡崎市4Hクラブ会
- ・ J A あいち三河青年部
- ・ J A あいち三河女性部
- ・ 岡崎市農業経営士会
- ・ 岡崎養蜂組合
- ・ 常南自然薯部会
- ・ 大門メ縄協同組合
- ・ 岡崎市肉牛生産組合
- ・ 東部地区代表生産組合
- ・ 葵地区代表生産組合
- ・ 六ッ美地区代表生産組合
- ・ 矢作地区代表生産組合
- ・ 額田地区代表生産組合
- ・ 西三河農村生活アドバイザー
- ・ 岡崎森林組合
- ・ 岡崎市ぬかたブランド協議会
- ・ 岡崎漆プロジェクト実行委員会
- ・ 岡崎市経済振興部商工労政課
- ・ 岡崎市経済振興部農務課
- ・ 岡崎市経済振興部中山間政策課

(2) 農山漁村発イノベーションの取組推進内容

農山漁村発イノベーション推進にあたって、異業種、異素材等との連携を図り、それぞれの特性をいかして、新たな価値の創出を進める。

ア 農林水産業×〇〇（魅力・高付加価値化・産業等）

- ・地元製品の販売力を高めるため、既存品の見直しと磨き上げを図り、魅力を高めブランド化に取り組む。また、新商品の開発に取り組み、高付加価値化による所得向上を図る。
- ・農林産物の加工、直売や観光農園、農家レストランの経営等の新規事業を立ち上げ、新たな付加価値の創出を推進する。
- ・農業者、観光事業者、飲食店等が連携し、需要に応じた地元産農林水産物が利用できる体制づくりを通じて、市外産から市内産に置き換える取組みを進めるとともに、農林水産物販売の拠点である直売所の設置や機能強化を支援し、地域内流通の拡充に取り組む。
- ・岡崎市農業農村情報通信環境整備計画に基づき、農業農村インフラの管理の省力化・高度化やスマート農業の実装を図り、最新技術を活用した機器、作業省力化のため新たに取り組もうとする農業者等に対するICT機器等の導入及びそれに関係する技術の研鑽の取組を推進する。
- ・岡崎市有機農業実施計画に基づき、有機農業を推進し、有機農業の面積拡大を目指す。また有機農業で生産された有機農産物の流通・加工等の取組を推進する。
- ・農福連携を推進し、障がい者の農業分野での活躍及び農業の新たな担い手となる可能性へつなげる。また、福祉分野における本市の農林水産物を使用した新たな商品開発の推進及び支援等にも取り組む。
- ・農泊を推進し、地域資源を生かした農業体験等の観光コンテンツとして活用し、インバウンドを含む国内外の観光客を地域に呼び込み、地域の所得向上と活性化を図る。

イ 耕作放棄地×〇〇（高収益作物・産業・SDGs・カーボンニュートラル等）

- ・今後文化財修復等で需要増加が見込まれる漆の栽培を産官学で連携して進め、岡崎の漆のブランド化を目指す、岡崎漆プロジェクトを推進する。また漆の樹液を活用し、バイオプラスチック等の新製品開発にも取り組み、新産業の振興や雇用の促進を図る。
- ・漆の植栽地として耕作放棄地を有効活用していくことで、カーボンニュートラルへの貢献、農地の多面的機能発揮を図る。
- ・耕作放棄地を活用した植林の推進、森林の適切な維持管理、木材製品の開発と利用促進、地域資源を活かしたクリーンエネルギーの導入等に取り組む。
- ・耕作放棄地について、高収益作物の導入、都市部住民への貸し出し、家畜の放牧等多様な活用を図るとともに、除草労力の軽減手法を検討する。

ウ 地域資源×〇〇（産業・SDGs・カーボンニュートラル等）

- ・市等が出資して令和4年2月に設立した地域商社（株式会社もりまち）において、主に林業の農山漁村発イノベーションを推進するとともに、森林空間を活用した森林サービス産業等を始めとする地域資源を活かした事業を推進し、地域の産業振興、雇用機会の拡大、所得向上を図る。
- ・森林、放置竹林等の有効活用、新商品開発等による農林水産業の活性化と、それに伴う雇用機会拡大等により、農林水産業を持続的に発展させ、その基盤である農地・森林・河川等の適切な維持管理を図る。
- ・自然環境や景観に配慮した上で、農林水産業と調和した再生可能エネルギーの導入、活用を推進する。
- ・市内の未利用資源を利活用した有機肥料の研究開発、持続可能な供給体制の構築を図る。
- ・バイオ炭等のカーボンニュートラルに向けた取り組みを推進する。

(3) 国、県、市等の支援策の活用

ア 岡崎ビジネスサポートセンターOK a - B i z の活用

本市では、事業者や中小企業の販路拡大等の諸課題を解決するため、「岡崎ビジネスサポートセンターOK a - B i z（以下「OK a - B i z」という）」を設置している。商品の開発～販売まで様々なアドバイスを受けることができるため、事業者にはOK a - B i zを積極的に活用することで、現状の課題から今後の課題について、相談することができるサポート体制を構築する。

イ 愛知県農山漁村発イノベーションサポートセンター（愛知県6次産業化サポートセンター）の活用

愛知県には、農山漁村発イノベーションに取り組む事業者の経営改善戦略の作成及び実行を支援するため、愛知県農山漁村発イノベーションサポートセンター（愛知県6次産業化サポートセンター）が設置されている。このサポートセンターには、専門知識を有する地域プランナーが配置されており、総合化事業計画の作成に向けた支援、農山漁村振興交付金（農山漁村発イノベーション対策）の活用に向けたサポート、認定後の事業実施のフォローアップや専門的アドバイスを行う等のサポート体制が整備されている。

本市で農山漁村発イノベーションに取り組もうとする事業者に対しては、愛知県農山漁村発イノベーションサポートセンター（愛知県6次産業化サポートセンター）の積極的な活用を推進する。

ウ 市の施策

地域資源ブランディング事業（地域再生計画）、地消地産・消費者交流推進業務、みどりの食料システム戦略推進業務等により、更なる農山漁村発イノベーションの取組を推進する。

エ 国の交付金（農山漁村振興交付金）の活用

「農山漁村振興交付金」は、地域の創意工夫による活動の計画づくりから農業者等を含む地域住民の就業の場の確保、農山漁村における所得の向上や雇用の増大に結び付ける取組までを総合的に支援し、農山漁村の活性化、自立及び維持発展を推進するための交付金である。

愛知県農山漁村発イノベーションサポートセンター（愛知県6次産業化サポートセンター）の活用と共に、農山漁村振興交付金の活用を推進する。

(4) 事業者等へ支援制度の周知等

認定農業者を中心に、農山漁村発イノベーションに係る制度や支援体制等について周知するとともに、農山漁村発イノベーションへの取組意向のある事業者を発掘する。また、農山漁村発イノベーションの取組を検討する農業者等に対しては、国や県と情報共有を図り、活用できる支援策等を提案する。

(5) 販路の拡大

ア イベントへの参加促進

市内外のイベントを活用し、農林水産物加工品の販売やPR活動を行うことで、生産者と消費者の顔が見える関係の構築を支援する。また、市内外のイベントにて、幅広い世代へ向けて農産物加工品のPR・販売を行う。

イ ふるさと納税の返礼品への展開

本市では、ふるさと納税の返礼品全体として、約2,400種類を取り揃えている。新鮮野菜や米等、農林水産物や加工品等の登録も多く、中でも人気が高かったのは米やぶどうである。今後さらに、農山漁村発イノベーションの新商品等を登録し、販路拡大につなげていく。

2 今後の農山漁村発イノベーション推進の成果目標

目標内容	現状（令和5年度）	目標（令和10年度）
農山漁村振興交付金（農山漁村発イノベーション対策）の活用	1件	増加
市内農林漁業者の所得の向上	1,113万円（平均）	1,200万円（平均）
各種イベント・フェア、ゆかりのまちでの販売促進	34回	37回
新商品の開発及び販路拡大への取組	15件	17件
I C T活用の取組	6件	10件

3 地域の特性を生かした商品開発等の方向性

本市では「岡崎市農林産物ブランド化推進品目」を定めており、市内で生産された農林水産物の品質の向上や市場や消費者から信頼される製品となること等、農林水産業の活性化を図っている。その推進品目について、積極的に農山漁村発イノベーション商品の開発を推進し、岡崎市を代表する新商品が生まれるよう支援していく。

岡崎市農林産物ブランド化推進品目一覧

・産地ブランド推進品目（40品目）

米	麦	大豆	さつまいも
いちご	かぼちゃ	きゅうり	なす
玉ねぎ	ねぎ	ほうれん草	里いも
自然薯	にんじん	いちじく	柿
くり	ぶどう	ブルーベリー	ゆず
植木	切花	千両	鉢物
茶	しめ縄	木材	牛肉
牛乳	豚肉	鶏卵	鶏肉
蜂蜜	きのこ	山菜	わさび
漆	楮	竹	鮎

・地域ブランド推進品目（8品目）

<p>藤川宿むらさき麦 （藤川まちづくり協議会）</p> 	<p>大門のしめ縄 （大門メ縄協同組合）</p> 	<p>法性寺ねぎ （法性寺ねぎ研究会）</p> 
<p>岡崎おうはん （岡崎おうはんブランド推進委員会）</p> 	<p>ぬかたのミネアサヒ （岡崎市ぬかたブランド協議会）</p> 	<p>岡崎竹千代ポーク （オクオカ竹資源活用協議会）</p> 
<p>純岡崎産ワイン （岡崎市果樹振興会）</p> 	<p>岡崎のぶどう （岡崎市果樹振興会）</p> 	

4 育成を図る農山漁村発イノベーション事業体の将来像

本市の農林水産物のブランド化が確立し、価格の向上、産地の振興が図られることにより、農山漁村発イノベーションに取り組む事業者等（農山漁村発イノベーション事業体）の所得向上につなげるだけでなく、本市の農林水産物及びその加工品の知名度を高める。さらに、市内農林水産物の産直・加工・製造施設等の充実を図るとともに、観光農園、農家レストラン、体験農園等の新規事業を立ち上げ、また異業種事業者の連携も推進し、新たな食の魅力づくりの一翼を担うことを目指す。

第2次岡崎市農山漁村発イノベーション推進戦略

令和6年3月

(令和7年3月 一部修正)

発行：岡崎市農山漁村発イノベーション・地消地産推進協議会

〒444-8601 愛知県岡崎市十王町二丁目9番地

TEL0564-23-6195 FAX0564-23-8970